

実践発表

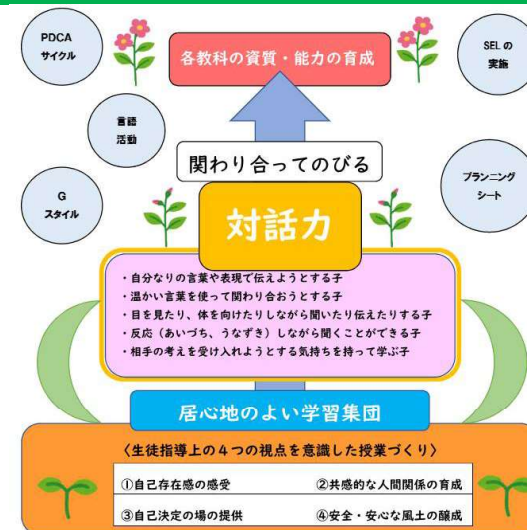
御殿場市立御殿場小学校

研修構想

目指す学校
フルーツポンチのような学校

学校経営目標
居心地のよい御殿場小学校
～誰一人取り残さない御小～

研究主題
主体的に考え、
言葉で伝え合う子の育成



意図的・効果的な対話の場の設定

- 自分の考えを持つ場面の設定
- 対話を通して、自分の考えを伝える

相乗効果をもたらす

居心地のよい学習集団

生徒指導上の4つの視点を意識した授業づくり

- | | |
|------------|--------------|
| ①自己存在感の感受 | ②共感的な人間関係の育成 |
| ③自己決定の場の提供 | ④安全・安心な風土の醸成 |

生徒指導上の4つの視点の捉え方

(1) 自己存在感の感受を促進する授業づくり

「自分も一人の人間として大切にされている」と感じ、自分を肯定的に捉える自己肯定感や、認められたという自己有用感を育む工夫が求められる。

(2) 共感的な人間関係を育成する授業

互いに認め合い・励まし合い・支え合える学習集団づくりを促進していくことが大切。例えば、児童生徒がお互いに、自分の得意なところを発表し合う機会を提供する授業づくりや、発表や課題提出において、失敗を恐れない、間違いやできないことが笑われない、むしろ、なぜそう思ったのかという児童生徒の考えについて児童生徒同士がお互に関心を抱き合う授業づくりが求められる。

(3) 自己決定の場を提供する授業づくり

児童生徒が、授業場面で自らの意見を述べたり、観察・実験・調べ学習等において自己の仮説を検証しレポートにまとめたりすることを通して、自ら考え、選択し、決定する力が育つ。

(4) 安全・安心な「居場所づくり」に配慮した授業

授業において、児童生徒の個性が尊重され、安全かつ安心して学習できるように配慮することも不可欠。授業は一般に学級・ホームルームの単位で行われるため、一人一人の児童生徒が安全・安心に学べるように学級・ホームルーム集団が児童生徒の「(心の)居場所」になることが望まれる。

御殿場小が目指す、「対話力」とは、どんな姿なのか、みんなで具体的に考えてみましょう！

互いの考えを比較する

- Gスタイルを使って伝え合う
- 友達の考えと自分の考えの色を変え、比較する

多様な情報を収集する

- 教科書、資料集、本、インタビュー

多様な手段で説明する

- 差し棒で前に出て説明する
- タブレットで情報を収集して説明する
- 見本を見せて説明する。(体育)

思考を表現に置き換える

- 友達の言葉を置き換える。明瞭
- 鑑賞の感想

協働して課題解決する

- 委員会活動
- ゲームで勝つためにどうするか話し合う(体育)

共に考えを磨き上げる

- 学級目標・スローガン
- 委員会の目標
- キーワードをつなげて創り出す

先哲の考えを手がかりとする

- 昔の漢字
- 歴史、資料から学びそれを伝える
- 自己内話
- 友達の考えを通して、自分の生き方や考えについて考える。
- 防災の対策
- 情報画、プロのアスリートの記録や動きから学ぶ

本人数 職員支援機構より

鳴門教育大学 久我 直人先生の要請訪問

5・6年生への講話

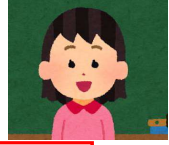
全学級の授業を参観

教員への講義

受け止める

動作としての受動的な「聞く」ではなく、
最後まで・反応して・受け止める
「聴く」を目指す
居心地の良い学習集団へ

受け入れてもらえた！



「聴く」の一点突破

学校全体での取組

「聴く」の徹底のために 4部会より提案

磨き合い部	鍛え合い部
<p>型：聴くサインを企画委員が考案し、児童会行事等で活用。</p> <p>心：職員会議で子供の絆づくりに有効なグループエンカウターを紹介。</p>	<p>型：各学級で集団行動や安全指導を徹底。</p> <p>心：体育の授業内で長縄チャレンジを実施。</p>

学校全体での取組

「聴く」の徹底のために 4部会より提案

学び合い部	生徒指導部
<p>型：各学級で聴き方のモデルを子供たちと話し合い、共有。</p> <p>既存のGスタイル</p> <p>聴くこと</p>	<p>型：学年集会で、集会や校内放送で話を聞く際のルールを共有・徹底。</p> <p>心：「聞くこと」に関するSELの実施。</p> <p>心：教員同士の研修の場を設定。</p>

生徒指導上の4つの視点を意識した授業づくり

①単元計画で意識する視点を明記

6 単元		生徒指導的視点		
時	内容	自己存在感	共感的	自己決定
1	...		○	
2	...			

②本時の指導過程で意図的に設定した活動を明記 (●印)

2. 本時の課題をつかむ ●地図の拡大で市役所の

市役所は、なぜこの場所にあるのかな。

○考えたことをみんなで共有しよう。●

たくさんの人が利用しやすい場所だからかな。

いろいろなところの中

③授業

①問いかけたり、一緒に考える相手を自分で選択したりしながら自分の考えを深めているか。

②共有する場面では、共感的に意見を聴き合っているか。

学習過程可視化法を用いた授業研究



プランニングシート作成

5 月別の取組計画

全体	学年	絆 (子供主体)
4月 ・研修①18日研究感想 ・道徳開き ・Gスタイルの共有 ・御殿場小学校の約束「大切にしよう 自分も相手も」	学年集会「担任の自己紹介、3年生として」 算数「かけ算のきまり」少人数 音楽「自分でクラスを決めて学習を始める。」	1年生を迎える 保護者の開始
5月 ・研修②1日専門教育大久我先生指導 ・「聴く」指導の徹底 ・SELの実施 ・15日児童理解研修 ・研修③プランニングシート作成 生徒指導上の実践上の4つの視点について	学年集会「聴くことの大切さについて」 「学年目標の共有」 算数「時間と時刻」少人数 算数「わり算」少人数 SELの実施①「聴き方を考えよう」 SELの実施②「○○さんからのメッセージ」	満足 クラス遊び 学級目標 懸念、決意 御小怒りの懸念、準備、実施
6月 ・研修④20日提案授業 3-1松岡先生	授業や朝の会、帰りの会などで話を聴く指導の継続 社会科見学「市役所に行こう」交通ルール、マナーを守ることや話の聞き方 算数「たし算ひき算」少人数 音楽「楽器の演奏の仕方を教え合おう」	
7月 ・研修⑤久我先生指導 ・地区説明 ・研修⑥24日 プランニングシート分析 と作成	算数「表とグラフ」少人数 算数「長さ」少人数 国語「作品鑑賞会」 音楽「ゆかやと木琴」合奏 授業や朝の会、帰りの会などで話を聴く指導の継続	学年レク実施予定 学級委員会を中心に計画、準備、実施

居場所作り (教師主体)
絆作り (子供主体)

各学年の取組を明記。
学年ごと足並みを揃えた指導。



プランニングシート分析

課題分析 (2の取組に対する教員の見積もり値 (目標値) と子供たちの声とのズレを分析する)

・同じベクトル、心のつま先を揃えてきたので『ア 学校が楽しい』が約60% (59.6%) という結果になり、目標を達成できた。しかし、学校が楽しいと思う子供たちが65%以上になるようにしたい。

・『ウ 授業に主体的に取り組んでいる』は、50%の目標を達成できなかった。(46.2%) しかし、肯定群が49%と高く、子供たちは主体的に取り組んでいると思われる。強肯定群が低い理由は、苦手な教科は主体的に取り組んでいないと感じている子供たちがいるからと思われる。強肯定群が50%以上になるようにしたい。

ズレを分析

取組のどこに原因があったのか、どうしてその結果になったのか、次はどう修正していくのか話し合う。

次学期のプランニングシートに生かす。



プランニングシート取組と目標設定

目標設定（3を受けて見直した取組の概要と、その結果到達するであろう見積もり値を設定）

- ・同級生を思いやれるように指導していく。
 - ・相手のことを考えて発言することの具体例を示していき、実践できたら称揚していく。
 - ・クラスや学年の友達を認めることができる場を設定する。
 - ・授業で分からないことを分からないと言える雰囲気作り、学級作りをしていく。
 - ・発言できる子供たちは、発言が苦手な子供たちの意見を引き出すことができるように指導する。
 - ・子供たち同士の関わりが多い授業作りをしていく。
- ⇒『ア 学校が楽しい』の数値が65%になる（重点・強化項目）
 ⇒『ウ 授業に主体的に取り組んでいる』の数値が50%になる（重点・強化項目）

目標達成に向けての2学期の具体的な取組（生徒指導実践上の4つの視点）

- 重点Ⅰ 自己存在感の感受への配慮 Ⅱ 共感的な人間関係の育成
- ・クラスや学年のためになることをしよう。（8・9月、10月）
 - ・良いところを見つける前に、良いことができる子供たちを育てる。教室へ掲示して共有する。
 - ・クラスや学年の人のよいところを見つけよう。（11月、12月）
 - ・友達のよい行動を真似ていく。

次学期からの具体的な取組と目標を設定。
効果のあった取組は継続、効果のなかった取組は改善策を考える。

様々なプランニングシート

プランニングシート子供への価値付け

実践例① 3年生の取組

実践例①3年生の取組

単元計画

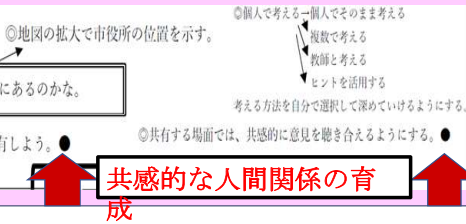
※当ではまる生徒指導上の視点に○を付けています。

時	学習活動 ○活動・子供の姿	◆評価規準及び評価内容【観点】	生徒指導の観点	
			自己存在	共感的
8 (本時)	○市役所はなぜこの場所にあるのだろう。 ・御小の校区は、住宅地が多くて人もいっぱいいるよ。 ・近くに大きな道路が通っているよね。	◆市役所のはたらきと、これまで学習してきたことを関連付けながら、市役所が今ある場所にあるべき理由を考えている。【思考・表現・判断】		○

本時の指導

2. 本時の課題をつかむ

市役所は、なぜこの場所にあるのかな。



共感的な人間関係の育成



実践例①3年生の取組

共感的な人間関係の育成

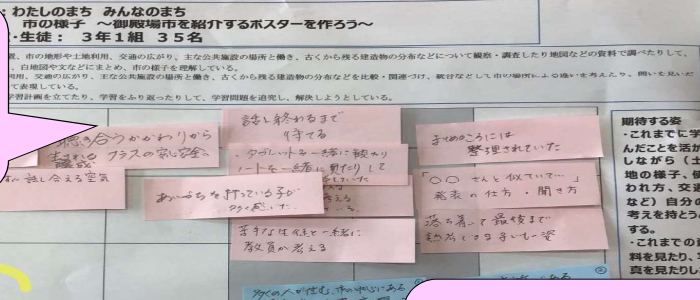
「1人でじっくり考える」必要に応じて「友達と一緒に考える」「教師と共に考える」など、多様な形態で考えを持つための手立てを講じる。



- ・自信を持って発表できる
- ・反応しながら聴いている
- ・子供同士で意見をつなげる

実践例①3年生の取組

授業者の声掛けや
切り返しが、「共感的な
人間関係の育成」に
つながり、本時の目標に
近付いたのではないかな。



3年生 意識調査比較
ア「学校が楽しい」
R7. 3月62.2%→R7. 7月63.2%
ウ「授業に主体的に取り組んでいる」
R7. 3月52.8%→R7. 7月55.6%

・子供の言葉から課題を提示
・名前を挙げて前時の振り返りを紹介
→「自己存在感の感受」につながった。

実践例②7月 久我先生要請訪問

単元・教科	対話に関わる活動	生徒指導上の視点
1年2組 (国語)	友達と絵日記を読み合い、良いと思ったことをお褒めし合おう。	①教師や友達の話を聴く際は、目や体を向けて聴く。(共感的な人間関係) ②友達の良いところを褒める。(共感的な人間関係)
4年5組 大塚甲 (学芸)	①参加者は挨拶や顔差し、背負の過ごしし。②自分の考えを持つように、事前にワークシートを配る。	
3年3組 中野 (国語)	①教師の用意した文庫品を見て、どこが面白かったのかを話し合う。②自分の感想を伝え、友達の感想を聴く。③自分の感想を伝え、友達の感想を聴く。	①話し合い活動や教師の説明を聞く際に、目や体を向けて聴く。 ②相手の意見を聴きながら、自分の考えを深める。(共感的な人間関係)
5年5組 香取 (社会)	①写真・地図・資料の活用を通して個人やグループで話し合うなど問題を提示して課題を設定する。②提示した課題について話し合い、自分の意見としてみとめる。	①個人で考える時間を設定する。(自己決定) ②問題を提示して話し合ったり、紙で意見をまとめるなどしていきなり、相手の意見を尊重し、自分の意見と比較して考えを深める。(共感的な人間関係)
2年4組 (道徳)	①みはちゃんとはずさんだが、それそれのようにはずさんなトラブルにならないか。②自分自身の考えを伝え、友達の考えを聴く。③自分の考えを伝え、友達の考えを聴く。	①「みはちゃんの問題点」が「みはちゃんの問題点」を選んで考えることができるようになるようにワークシートを配布する。(自己決定) ②聞き手が「自分の意見をよく聴くために、発表者が話しやすいように質問を投げかける」ようにする。(共感的な人間関係)
6年5組 池田 S E L	①事例からトラブルの原因について理解し、互いに納得できる方法をグループで決めて話し合う。②事例に合わせた自分自身の気持ちや、相手の思いをくみ取った自分自身の伝え方ができるようにする。	相手の思いをくみ取り、より詳細に意見を交わすための手立てを講じる。(事例中「相手の思いをくみ取る」) ③自分の思いを伝える(共感的な人間関係)

2つの視点を取り入れた授業づくり
本時ですべき支援や留意点が明確になり、子供たちの関わり合いを生かした授業になった。

実践例②7月久我先生要請訪問

1年生

共感的な人間関係の育成
教師の声掛け
↓
温かい雰囲気の関わり合い



2年生

自己決定の場の提供
ワークシートを工夫
↓
子供たちの活発な発言



3年生

共感的な人間関係
「目・耳・心で聴く」
指導の徹底
↓
自分の考えを持とうとする
子供の姿



4年生

自己決定の場の提供
子供たちだけで学級会を進行

自己存在感の感受
発表された意見は
本人の作成したアイコンと共に掲示



実践例②7月久我先生要請訪問

5年生

共感的な人間関係
様々な形態で活動
↓
多くの子供が自分の考えを
持てた



6年生

共感的な人間関係
相手の考えに共感し
ながら聴く
↓
自信を持って発言



研究の成果と課題

成果

プランニングシート
作成の継続

- ・教員間の意識向上
- ・実践の意図や価値が子供に
確実に伝わる

「聴く」の
一点突破指導

- ・相手を大切にしようとする
意識の向上
- ・よりよい人間関係の形成

研究の成果と課題

成果

「生徒指導上の4つの視点」を取り入れた授業づくり

- ・よりよい学級風土の醸成
- ・対話力の育成

相乗効果

9月の授業の様子



研究の成果と課題

課題

「聴く」から
「聴き合う」
「関わり合う」へ

- ・「自分と同じ／自分とは違う」を見つけながら聴く
- ・聴き手を意識して、自分の思いや考えを発信

今よりも、もっと
「居心地の良い
御小」へ

- ・今後も、子供たち主体の活動を意図的に取り入れる
- ・一人でも多くの子供が、**自分をまもる場**を積極的に設定

特技発表会 企画委員会主体のイベント など

ご清聴
ありがとうございました

